



大沼公園駅で停車中のニセコ号

【令和8年度の上半期を終えて】

皆さま、こんにちは。事務局長の河又です。
早いもので令和8年度もあっという間に半年が過ぎ、10月より下半期がスタートしました。

この半年間(上半期)を振り返りますと、一部、天候事由による小さな変更等はありませんものの、全体的には概ね堅調に推移しており、イベントやPR活動といった個々の取り組みについても期初計画に則って遅滞なく実行することができました。

収益事業の柱である「体験型観光」の取扱いにつきましては、4～9月の累計実績で42件/160名となり、件数では前年比69%、人数でも同63%と、前年を大きく下回る結果となりました。これはポストコロナによる旅行需要の一時的な高まりが落ち着いてきたことに加え、旅行形態の多様化により大型団体が減少してきていることなど、いくつかの要因が複合的に作用しているものと考えられます。

また、収益事業のもう1つの柱である「物販事業」におきましては、本年4月より販売を開始しました新商品「鮎の炊き込みご飯の素」が好調に売り上げを伸ばし、全体でも前年同期比で約110%と上期を通じて堅調を維持しています。本商品については既に在庫の約8割が捌けていることからすぐにでも追加生産に着手したいところですが、発注には製造最低ロットである1,000パック分の鮎(1,500匹以上)をご準備いただく必要があり、必要漁獲量の確保が目下の課題となっています。

一方、これより始まります下半期におきましては、例年同様、取引先や関係先に対する営業・PR活動の実施、次年度に向けた事業計画や予算案の策定といったところがメインの取り組みとなってまいります。本年度も2月頃を目途に町内観光事業者を対象にした勉強会の開催を計画しておりますので、具体的な内容や日程が固まり次第、皆さまにあらためてご案内させていただきます。

加えて、来る令和9年度に向けましては、観光協会の役割や機能を再整理し、それにふさわしい組織・人員体制へと見直しを図る予定です。関係の皆さまには、具体的な方針や体制等が決まり次第、順次ご説明させていただくつもりでありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

末筆ではございますが、関係の皆さまには日頃のご厚情にあらためて深く感謝を申し上げますとともに、本年度も残り半分となりますが、引き続きご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

B2

ニュースレター

2026/9/30

来期の観光協会の主な事業 フットパスクラブ秋のイベント

【フットパスクラブ通信】

草刈りをしていて感じる
自然と危険は隣りあわせていう実感

【色々作っています】

極力人手をかけないでお金儲け！となった
ら委託物販なんですが、売るものがない件

【秋の黒松内PRまつり】

駅ナカPRだったり、実際に列車に乗ってみ
たりで、割とJR三昧のPR活動でした。

【じり通信No.41】文：山本竜也

都会じゃ聞かなくなった「ひっかかる＝親
戚・関係者」という言葉の話

【リーダーについて】

どんなリーダーが良いのかな？というふわつ
とした疑問に対する私なりの回答

【編集後記】

入院した時の話

協会主催・協力イベント

フットパスクラブ秋のイベント

10/31(土)に開催予定です

詳細は決まり次第おしらせします！



フットパスクラブ通信 Vol. 25

【スズメバチにご用心 チョポシナイコース整備だより】

黒松内フットパスクラブの活動の一環でチョポシナイコースの整備のため草刈りを行っております。約10kmあるチョポシナイコースを3区間に分け、5名体制で年に7日ほど行われています。コースの両脇にあるイタダリの枝や笹などが通行の邪魔になっている箇所が多くあり、倒木処理が必要となるなど整備作業が困難を極める事もあります。また、以前遠方から来られた方がコース上に肥沃な土地にしか生息しないと言われているオオウバユリを発見し大変気に入っていただいた事をきっかけに、コース整備時にはオオウバユリを刈らないという暗黙のルールが出来ました。そのため作業者は誤って刈らないよう常に気を配っております。

そんなある日、草刈り実施の際に私がスズメバチに刺されてしまいました。すぐにあたりの様子を確認し、何匹かホバリングして警戒態勢に入っていたためその場を離れました。刺されたのは手の甲で約24時間後に腫れの最も大きくなりましたが、その後引いていきました。痛みもありましたが、一番しんどかったのが痒みでした。刺されたその日に診療所に掛り痒み止めを入手していたため、処方後には引きましたがなければちょっと大変だったかもしれません。

その後、同じ場所に足を踏み入れましたが、巣やハチの姿は確認されなかったため、現在は安全に通行可能となります。フットパスコース以外でも歩く際は虫除けスプレーやクマ鈴をお忘れなくご準備ください。ですが、一般的な虫除けスプレーではスズメバチは防げませんので、ハチに遭遇した際には刺激せずにそっと離れてください。皆様、自然を楽しむ際にはご安全に。(事務局：岡本)



色々作っています

【今後の物販について考える】

いつの間にか手ぬぐいの数も少なくなり、アユの炊き込みご飯の素に至っては、4月販売開始から約半年で全体の8割強を販売したという予想以上の健闘ぶりに少々驚いています。ただどちらも全部売り切ったらそれまでよという商品なので、この先バナサブレだけでは食っていけないよね?となっているわけです。

ただ、黙って待っていたわけでもなく、ひっそりと作っていたジモトートや、ビーフ天国なんかでスタッフが着ていた去年作ったものとはまた別の新しいポロシャツなど、いくつか新商品が生まれつつあります。どこで売るとか、いくらで売るとかそういう話になりつつありますが、やっぱり数自体は少ない目です。

食べ物とは違い賞味期限もなく、デザインは一度完成してしまえば、あとはネットでポチれば増産は容易という点が大きく違いますよね。お金に余裕があれば一気にドーンと作るんですけど、在庫もドーンとなってしまうと困るので、ビビりながら小出しに作っていくしかないのが現実ですね。

何かを作るにしても先立つものがないからと補助金なんかを使ってみるわけですが、余裕のない人だと今度は補助金以上のお金を自分の財布から出さなくならないという病気にかかります。身銭を切るのが怖くなる病ですね。観光協会もそんな病気に若干かかっているように思います。

自腹切ってしっかりと覚悟してやり切るのだ! っていう決意や覚悟がない人が、なとな〜く物売ったってやっぱりうまくいかないんだろうなあ。なんて思いつつ、自腹切り過ぎるとすぐに死んでしまうという切ない現実と、財布の中身を見てうーんうーんとうなる事務屋さんのひとりごとでした。



特別儲ける必要はないけれど、余裕が持てるくらいのお財布事情にはなりたいですよね(事務局：遊佐)

秋の黒松内PRまつり

【JRつくし】

ビーフ天国直前ということもあり、黒松内はPR活動が盛んな9月となりました。去年につづき、今年もJR札幌駅北口の「どさんこプラザ」にて、しりべしフェアが開催され、黒松内からもお店が出店することだったので、販促+賑やかしということで9/3-4の二日間で黒松内PRエリアを用意してもらいました。

去年は津波警報、今年は室蘭線の一部不通という具合で、何かとトラブルもついてくるしりべしフェアですが、販促用の抽選も割と好感触のようで喜んでもらったのではないかと勝手に感じています。そして、これまた去年と同じく、今年もしっかりと迷える旅行者たちへ道案内をすることができ、地域・観光客の両方向への貢献という、非常に意義のある活動ができたと自負しております！

さらに、今年は特急ニセコ号内での黒松内のPRという新しい試みもありました。トワ・ヴェールはカシスエールやチーズなどを札幌ー函館間で販売し、長万部からは、我々の持ち込んだアユの炊き込みご飯の素やどら焼きなどの車内販売も行い、黒松内のパンフレットと一緒にばらまいてくるという活動を行いました。



通路が狭いのと、車両が大きく揺れるので予想以上に大変な車内販売ではあったのですが、思いのほか景気よく買い物をしてくれるお客さんもおり、予想よりも売上がよくて少し驚くという結果になりました。

今年は調整つかなかったようですが、地域の学生たちが直接乗り込んだりすると、おじさん達がよろよろしながら車内販売をするよりも、お客さんは喜んでくれるかもしれません。来年も機会があるならやってみるとよいかもですね！



仕事とはいえ、せっかく函館駅まで行ったのに滞在時間30分で即折り返しというのは、なんとまあ、切ないですね(事務局：遊佐)

じり通信No.41

【ひっかかり】文：山本竜也

伯父や叔母、従姉妹といった近い親戚ではなく、従姉妹の夫の弟の妻の親、といった遠い親戚を指して「あの人とはひっかかりがある」と言う人がいる。寿都に住んでいるときに気が付いた。お年寄りばかりでなく、現役世代も使う。私の出身地の大阪では、「詐欺にひっかかる」「心にひっかかる」といった表現はするが、親戚関係では言わない。札幌でも耳にしない。だが、黒松内の黒羽修平さんは「黒松内でも使いますよ」とおっしゃるし、余市に住む北海道方言研究者の見野久幸さんによると、余市や岩内でも聞く言葉らしい。後志地方の方言なのだろうか。

デジタル大辞泉で「ひっかかり」を検索すると、「関係があること」という意味が出てくる。「あの家族とはひっかかりがある」という用例も紹介されている。山本周五郎の小説「山彦乙女」には「正雪に資金を出したという人間と、丸茂の家と、なにかひっかかりでもあるのか」というセリフが登場する。まさに、「親戚関係なのか？」と問うているようだ。周五郎は、山梨、東京、神奈川などで少年時代を過ごしている。かつては、関東地方でも「ひっかかり」を親戚関係に使っていたらしい。国会図書館デジタルコレクションで資料を探すと、東京の国分寺や小金井の民俗資料に、親戚を指す「ひっかかり」が登場している。

ところが、いま、グーグル検索しても、「ひっかかり」を「関係がある」や「親戚だ」という意味で使っている人は見当たらない。消えつつある用法が後志地方に残っているのかもしれない。

何故言葉が消えていくのか？ってことを考えると、ことばの成り立ちや当時の環境なんかをまとめて振り返ることになるので大変お勉強になる気がします。でも、気がするだけなので本当にお勉強になるかは不明ですが、自由研究の課題とかでもやっぱいいと思いました。(事務局：遊佐)



リーダー

【理想のリーダーなんているのかな？】

とある人から、この町にはどんなリーダーが良いと思うか？って話をふられた。
結論から言うと「しらんがな」である。

例え話をすると・・・

車を買う時皆さんは何を基準に選びますか？

エンジンのパワー、ハンドリングの良さ、静粛性・快適性、多くの荷物を詰めること、使用環境、お財布事情などなど、色々な要素から判断しますよね。仲のいい知り合いが格安で譲ってくれるからといっても、あぜ道や雪道メインで走るのにシャコタンのクラウンなんて選ばないでしょ？

リーダーも同じじゃないですかね？ってのが私の考えです。

そんなもの人によりけりだ、理想のリーダーなんてものは個人個人が抱く妄想であるということ。

なんでもできるリーダーなんて存在するわけがない。けど、その道のスペシャリストってのは存在するよね？

そのスペシャリストが、あなたがもつ理想に近い存在であるならば、その人をリーダーになるよう応援すればいいんじゃない？それか自分の理想は自分で叶えるってことで自分がリーダーになることですね。

それじゃあ、この町のリーダーに求める理想ってなんですかね？ってのはなしに当然ってきますよね。

AさんとBさんの思う理想が違えばリーダー像だって変わるわけで、要は「※個人の感想です」みたいなものである。

だから「しらんがな(あなたの望む答えを私は持ち合わせていません)」という大変誠実な回答になるわけですね笑。

理想はいまいちピンと来なくても、こいつじゃダメだろうっていうのはシャコタンクラウンの例のように判断しやすいですよ。そういう視点からリーダーの事を考えてみるのも悪くないと思います。リーダーは付き合いで決めるものじゃないですよ。

自分で決めるのです(事務局：遊佐)

編集後記

【認知バイアス】

バイクでこけて鎖骨が折れたので、お盆休み前に入院することになった。そのとき、リハビリのお兄さんと「バイクっておっかない乗り物なのか」という話になった。

リハビリのお兄さんは、仕事柄、バイクで怪我をした人とはたくさん出会うことができる。ところが、怪我をしていない健康なライダーとは、バイクとの接点がないので、基本的に会うことはない。そうすると、彼の身の回りには「バイクに乗って怪我をした人」がどんどん集まってくる。結果として、バイクは怪我をする危ない乗り物だ、という印象が強くなる。

実際には、怪我を乗り越えて死ぬことだってあるし、怪我することなく天寿を全うするライダーだってたくさんいるはずである。でも、人間の頭の中では、身近で思い出しやすいものほど「よくあるもの」として扱われやすい。これが利用可能性ヒューリスティックって奴ですね。

今見ている世界も、実は自分の立っている場所から、ほんの一部分を切り取ったものなのかもしれない。たまには立ち位置を変えてみると、今まで見ていなかったものが見えて、現実がちょっと楽しくなるのかもしれないよ。しらんけど。



観光協会HPにて[B2]バックナンバーがご覧になれます。

www.bunatatourism.com

印刷版をご希望の方は観光協会までご連絡ください。



発行人：一社) 黒松内町観光協会 発行日：2026/9/30 次回発行予定は12月末

TEL：0136-72-3597 FAX：0136-75-7070 Mail：bunatatourism@gmail.com